

私は、北海道千歳市の出身で、高校卒業後浪人して大学を目指しましたが受からずに就職か2浪か迷っている時に両親の勧めで測量の専門学校に進学しました。測量や土木設計という業種は、当時の私は無知で職業の選択肢にはなかったのですが、学校で経験したところ計算や物づくりが好きだった事もあり楽しくて夢中になりました。農業土木が主体の会社に就職し、農道や用排水路の設計を5年経験しました。会社の業績が悪くなり設計部の縮小のため上司の勧めでHRSに転職しました。

HRSは、小樽に本社がある地域コンサルタントであり、高規格道路や国道から工事用道路や取付道路まであらゆる道路設計や道路附属物設計を経験し、現在22年勤めています。

技術士は、43歳の時に取得しました。その時にお世話になった人の勧めで青年技術士交流委員会の活動に参加しました。同年代の技術士と楽しい活動を経験し、その中でも「技術士を知ろう！小学生編」の企画を立案し開催することができたのが印象的でした。小学校との打合せの際に学校側から「技術士として何を伝えたいのか明確に」という事で、会で話し合い私たちの思いを文章化した「技術とは科学と社会をつなぐ接点」「科学と社会をつなぐのが技術者」「技術者は楽しくて素晴らしい仕事なんだ」「君たちも将来、ぼくら技術者の仲間になってほしい」とこれらの言葉が気に入っています。現在は会を卒業しエンジョイサイエンス研究委員会とミライ研究委員会で活動しています。また、技術士を目指す人を応援する活動の会に参加しています。北海道や全国の建設部門や他部門の講師と交流ができることもいい経験です。これからもいい経験を積み重ねていけるようにし次の世代に伝えていければと思います。

堂領 弘昌 (どうりょう ひろまさ)

●建設部門(道路)

勤務先

HRS 株式会社



→次号は、秋元明美さん(環境部門)

私は、高校まで夕張で育ち、大学に進学して土質力学のゼミに入り、現在の仕事に携わっています。土質力学の講義の中で「礫、砂、粘土の地盤があった場合、どの土質が一番丈夫でしょうか？」的な質問があった際、夕張の山で育った私は、河川沿いに転がる間隙の大きい石や、砂浜のサラサラな砂よりも、山の中に分布する硬質な粘土の方が丈夫だと思い、粘土地盤が一番にした記憶が残っています。そして現在の職種につき、土の中には、植物のみで構成される泥炭や、粒径均一な砂層や海成粘土などが数メートルに渡り分布する場所があることも知り、地盤の中ってこんなに綺麗なんだと感動したことを覚えています。中沼での新人研修では、鉄の棒が(ピートサンプリング)、人力だけで10m以上も貫入できる地盤があることを知り「札幌やばっ！」っと、思ったことも鮮明に覚えています。

私は、勉強で得た知識よりも、現場で経験した知識の方が多く、若い頃は、平板載荷試験や杭の載荷試験を沢山経験し、地耐力や支持力を算定したり、載荷盛土の動態観測業務を何度も担当して、実際に生じる沈下の状況や、水平変位がどの程度生じれば、円弧すべりが発生するか？といった経験を得て、成長してきました。地盤に関する仕事に携わり、20年以上が経過して技術士になることもできましたが、まだまだ未知な地盤は多く、今後もいろいろなことに興味を持って研鑽していきたいと思っています。

最後に、若い頃はセットものの定食を両方大盛りにして完食していましたが、今では単品を食べるのも難しいメニューが増えてきました。コロナにより皆さんと会える機会が減りましたが、落ち着いた際には、食事を楽しみながら、語り合えるよう内臓にも気をつけていきたいと思っています。

松本 博志 (まつもと ひろし)

●建設部門(土質及び基礎)

勤務先

トキワ地研 株式会社



→次号は、佐藤大丞さん(建設部門)